

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

# おひさまだよ

発行 麻生区クールアース推進委員会 2025年9月

麻生区地域課題対応事業

52  
Vol.



## 出前シアター「地球を救おう」

7月23日(木) 川崎青葉幼稚園

当会では2008年度から保育園出前講座を行ってきました。コロナ禍でお休みしていましたが、深刻化する地球温暖化やSDGsへの意識の高まりを受け、自然エネルギーの大切さを、次代を担う子どもたちに伝えたいと、6年ぶりに再開しました。

出前シアター「地球を救おう」は、パネルシアター「ちきゅうがあぶない」と「おひさまと遊ぼう」をセットにした70分のプログラムです。開催に向けて、4月末に行われた麻生区の園長会で、当会の活動や出前シアターをアピールしたところ、5つの園から申し込みがありました。

川崎青葉幼稚園からは、夏休みの預かり保育の中で「少しでも子どもたちの思い出に残る夏休みにしたい」と、声がかかりました。当日の参加は園児29名、職員4名。私も含め、保育園の出前シアターに初めて参加する委員会メンバーも多い中、8名(内、区役所2名)で対応しました。

当日は天気にも恵まれ真夏の暑さの中、ソーラークッカーの「おやぴか」「きらぴか」の2台を組み立て、試食用のさつまいもは鍋に、カボチャは飯盒に入れてセットしました。

### ●パネルシアター

パネルシアター「ちきゅうがあぶない」はこの3年間、小学生向け「夏休み環境イベント」で、何度も練習しながら改良を重ねてきたものです。パネルシアターで地球温暖化の影響や原因を地球さんと太陽さん、白くまやペンギン、南の島と日本の園児家族に扮してやさしく説明します。自然エネルギーのことも伝え、今日から自分たちにできる事として「水を流しっぱな

### Contents

- ・出前シアター「地球を救おう」 ①
- ・2025夏休み環境イベント「ソーラークッカーを作ろう！」 ②
- ・CCあさお主催の「恩廻公園調整池見学会」に参加 ③
- ・寺子屋あさお/寺子屋くりぎだい ③
- ・「気候変動は国に措置義務あり」 ③
- ・麻生区役所屋上太陽光発電設備の紹介ポスター掲示 ④
- ・2025里山フォーラム in 麻生(第24回)に参加 ④
- ・あさお子育てフェスタ「おひさまと遊ぼう」/編集後記 ④

しにしない」「電気をつけっぱなしにしない」「食べ物を残さない」を子どもたちと確認しました。

### ●おひさまと遊ぼう

子どもたちはホールを出て、靴を履きかえ園庭に出ました。熱中症警戒アラートが鳴る中だったため、ソーラークッカーの説明と目玉焼きの実演、ソーラーカーやソーラーおもちゃ遊びを、日陰での休憩をはさみながら5分ずつに限定し、体験しました。ちょうど園庭に出た時間に少し雲が出てしまいましたが、子どもたちはソーラーカーを夢中で走らせたり、目玉焼きが焼ける様子を歓声をあげていました。試食ではこの日一番の歓声があがり、おかわりしたい子たちでいっぱいでした。太陽光のパワーを子どもたちに伝えることができ、充実した会になりました。

### ●園からの感想と今後の予定

「パネルシアターはわかりやすく、子どもたちもよく理解していました。地球環境について、貴重な学びの場となりました。ぜひまた来年、次の年長さんに体験させてあげられたらうれしいです」との感想が寄せられました。

今年度の出前シアターの受付は応募多数につき終了しましたが、9月以降、上麻生保育園、高石保育園、王禅寺しらゆり保育園、白山保育園での出前シアターを予定しています。今回の反省点を今後に生かし、秋以降の準備をすすめていきます。(松下彰子記)



2

心配された台風もそれて、何とか太陽が顔を出してくれた一日でした。昨年に続き市販のキットを使わずガスコンロシートで、今年は朝顔型ではなく中條式ソーラークッカーを作りました。

当日参加者 18 組 48 人 (大人 21、子ども 27) とスタッフ等 15 人 (委員 8、OB4、学生 1、区役所 2) 合計 63 人での実施となり、麻生区役所第 1 会議室 B+ 第 2 会議室に 10 時に集合し、約 2 時間のイベントを行いました。

司会者開始宣言、委員長挨拶の後、司会者は子どもに対し席の移動を促し、シアターの前に 6 列 5 人用の座席シートに座ってパネルシアターから始めました。

■パネルシアター「ちきゅうがあぶない」

シアター担当はパネルを貼りながらナレーターも兼ねて子どもたちに話しかけ、声の出演者はそれぞれのお面を被りながら感情をこめて声を出しました。子どもたちはどの子も熱心に画面を見つめながら、地球で起きている豪雨や猛暑の環境変化やその原因、影響を受ける人々や動物の姿を学びました。最後に太陽の呼び掛け「おい地球のみんな！地球を救えるのは皆さん 1 人 1 人です！」に対し、子どもたちも含め全員でこぶしを上げながら「がんばるぞー」と氣勢を上げました。

■工作説明

工作に先立ち、ソーラークッカーは太陽のエネルギーで調理をする道具であることと、中條式ソーラークッカーの特徴をパワーポイントで説明しました。テーブル上に置かれた袋を開け、まず材料の確認をして、工作に取り掛かりました。

作り方 1: ガスコンロシートを正方形にする。

作り方 2: シートに切り取り線(黒)、折り曲げ線(赤)ガイド線(青)を描く。黒線を切り赤線を折り曲げる。

作り方 3: クリップを使って組み立てる。

作り方 4: 調理用の容器(空き缶と蓋)を黒く塗る。ハイそれでは皆さん作り方 1 から始めましょう。

■工作開始(委員と学生が各テーブルについてサポート)



実際に始めてみると、定規の使い方がわからない子や、正確に定規の数値を確かめられない子などいましたが、スタッフの助言や親の手を借りて進度にバラツキはあったものの、皆さん工作に夢中でした。途中から工作は親任せで、調理用容器(空き缶)の色塗りをする子もいましたが、年齢に差があるのでやむを得な

い部分もあります。こうして何とか全員無事に自分のソーラークッカーを完成させた子どもたちは、スタッフに誘導されて区役所の屋上に上がりました。

■屋上見学と試食

とても暑いのに太陽が出たり隠れたり、目玉焼きに 30 分もかかる雲行きの中、OB4 人がクッカーの担当をしてくれました。焼き芋と、厚いケーキを薄いケーキに変更して、どうにか子どもたちが試食できる量を焼き上げました。

見学時には運よく晴れて目玉焼き実演も見せられ、ジュッと焼ける音に歓声が沸きました。ソーラークッカー等の荷揚げ&組立てから調理片付けまで暑い中、OBの方々には感謝しかありません。

なにしろ暑い！長時間は屋上にいられないので、大きなおやぴかやきらぴかなどクッカーの説明も、太陽光パネル発電装置の説明も簡単に済ませました。ソーラーカーで遊ぶのに夢中な子に声をかけ、短い屋上体験となりましたが、それでも子どもたちはとても楽しそうでした。



■サマリ+クイズ+アンケート

会議室に戻って試食した後、温暖化について要点をまとめ、クイズで確認、アンケートを親子で書いて終了となりました。以下感想の抜粋です。



- ・ 1 年生：パンケーキがおいしかった。
- ・ 2 年生：楽しかったし、よくわかった。
- ・ 3 年生：おじさんたちがついてくれたから、うまく作れた。
- ・ 5 年生：今までも地球があぶないと分かっていましたが、今回でよりいっそうあぶないと思いました。太陽の力はすごいと思った。
- ・ 6 年生：ソーラークッカーを作るのは少し大変だったけれど、料理をする時の力がすごいなと思いました。
- ・ 大人：何回も作って教えていただきありがとうございます。小さい子には少々難しかったようです。でも、パネルシアターは一生懸命聴いていて、なんでこんなに暑いのか理由を知れたので良い機会になりました。家でクッカーを使って楽しみたいと思います。(井上正樹記)



## CC あさお主催の「恩廻公園調整池見学会」に参加

8月1日(金)10時~12時、県立恩廻公園調節池見学と脱炭素キャンペーン「地球温暖化を考える」の講義が参加者とスタッフの35名で実施され、当会も参加協力しました。

調節池の説明は、本誌 Vol.48 にも報告されており、麻生区のH.P.で見られます。調整池完成前の1958年~1982年の24年間は、台風の雨水により鶴見川は4回氾濫し、下流域で床上・床下浸水が出ました。2003年完成後の22年間では、3回地下トンネルが使用され、氾濫を防ぐことができたそうです。温暖化により、いままで経験したことのない短時間の降水量を何としても受け止めて欲しいと切に願いました。(児嶋脩記)



## 寺子屋あさお

『SDGsを学ぼう！ソーラークッカーを作ろう！』



7月12日(土)麻生小学校で寺子屋体験学習の出前講座を実施、参加は児童12人、保護者12人でした。

初めに「自然エネルギーって何だろう？」の講義で地球温暖化のこと自然エネルギーの大切さを勉強し、続いて中條式ソーラークッカーの工作を行いました。参加児童は低学年が多く保護者と一緒に工作を楽しんでいました。

最後にまとめとクイズを行い、感想を書いて終了。「地球のこれからの問題点をどうしていくべきか、勉強できて良かった」「めっちゃたのしかった」「はなしがながかった」などの意見があり、概ね好評でした。

終了後、クッカーについて熱心に質問する保護者もいて、関心が高まったと感じました。(三好一義記)

## 寺子屋くりぎだい

体験学習『ソーラークッカーを作ろう！』

7月19日(土)栗木台小学校で寺子屋への出前授業を実施し、参加は児童16人と保護者15人でした。

この日は良いお天気だったので、始まる前に昇降口入り口前にソーラークッカーを設置し、鍋にサツマイモと飯盒にジャガイモをセットしました。クッカーでの調理の様子を見てから、参加してもらいました。

「自然エネルギーって何だろう？」の講義、続いてガスコンロシートで中條式ソーラークッカーの工作を児童&保護者が共同で作業しました。

「つくるのがむずかしかったけどもたのしかった。またつくりたい」「いいものをつくれたと思いました。27%おぼえられてうれしかった」など好評でした。

寺子屋での出前授業も「あさお」から始まり「くりぎだい」は3年目になりました。今年度は「はるひ野」での授業も予定しています。他の小学校にも広がればと思います。(三好一義記)



## コラム

## 「気候変動は国に措置義務あり」 国際司法裁判所が責任を初めて認定

国際司法裁判所(ICJ)は7月23日、国際法上各国は気候変動対策において「あらゆる措置をとる義務がある」とする勧告的意見を出した。主に25日の朝日新聞朝刊から引用する。

ICJは193カ国が加盟する国連の司法機関。この決定に拘束力はないが、不公正を正す「気候正義」の実現に向けた新たな指針で、義務違反の責任にも踏み込んだ。

2015年に採択された「パリ協定」では、産業革命前からの気温上昇を出来れば1.5度に抑える長期目標を掲げ、各国は温室効果ガスの削減目標を作り、国連に

提出し実現する義務を有する。だが目標内容は各国任せで、現実には排出は減っていない。ICJの意見は、23年の国連総会で採択された決議を受け、温暖化の危機に晒されている島国の提起に答えたもの。

ICJは、「清浄で健康的な持続可能な環境」はすべての人権の前提で、削減目標の設定も各国の裁量まかせではなく、1.5度目標に沿ったものであるべきとした。また「国際法上の不法行為」として化石燃料の消費や生産補助金などを列挙し、不法行為で被害を生じさせた場合、法的責任を問えるとした。各国の取り組みの変化に期待したい。(児嶋脩記)



3

## 麻生区役所屋上太陽光発電設備の紹介ポスター掲示

当委員会発足の契機となった太陽光発電設備が区役所屋上に設置されたのは、区制 20 周年の 2003 年 2 月でした。そして 2 階ロビーの電光表示パネルで発電量等を公開していましたが、電光表示パネルが故障してからは発電状況すら不明で、残念な状態が続いていました。しかし、太陽光パネルは発電していることがわかり、2025 年 3 月に故障パワーコンディショナーを交換しました。現在電力は区役所で利用されています。

いち早く地球温暖化解決に向けて取り組んだ麻生区の姿を、区民の皆さまに広く知っていただくため、電光表示パネルに代わるものとして、ポスターを区役所 2 階ロビーに掲示することになりました。興味を持たれたら屋上見学にご案内しますので、ぜひお問い合わせください。  
(森脇厚一郎記)



## 2025 里山フォーラム in 麻生(第 24 回)に参加 来て・見て・語って 明日へつなごう! 足元の自然とかがわる暮らし

3 月 2 日 (日) 10 時~15 時 30 分、麻生市民館大会議室に麻生区内のみどり・環境を守り、命をはぐくむ 36 団体と共に、金程中、東柿生小、虹ヶ丘小、柿生小、岡上小の子どもたちも参加しました。

第 1 部は金程中学校吹奏楽部のマーチでオープニング。区長や里山フォーラム代表の挨拶後、それぞれ小学生たちは、隣接する里山で学んだことなどを発表し、お楽しみワークショップでは「ムクロジで遊ぼう」「炭に触れて切ってみよう」に挑戦しました。

第 2 部は市民館館長挨拶などの後、第 19 回わたしのまちのホットする風景写真展作品の表彰式と、堂前雅史和光大学教授による基調講演「生物の多様性と活動の多様性」がありました。展示団体のリレートークでは、「温暖化を止めるための省エネ、創エネの重要性」を訴えました。



(児嶋脩記)

## あさ子育てフェスタ「おひさまと遊ぼう」

2025 年 3 月 20 日(木)10:00~13:00

### ●おひさまと遊ぼう

会場は区役所入口に一番近い太陽の日の当たる場所かつ天候にも恵まれ、子どもたちがソーラーで走る車や、ソーラーで動くおもちゃに目を輝かせていた。親子で「おひさまと遊ぼう」に参加し、「昔を思い出し、楽しめた」と話していた若いお父さんが印象的だった。親子 2 代で参加してくれている事実を踏まえ、継続していく意義を改めて強く感じた。

### ●参加団体交流会

今回のフェスタは 13:00 で終了し、初めての試みで参加団体交流会が麻生市民館視聴覚室で 13:15~15:00 に行われた。

これまで、参加団体の横の繋がりが少なく、顔が見えにくかった。今回の交流会で、活動の内容や子育て支援への思いを伝えあい、理解が深まったと皆さん喜んでいました。  
(井上正樹記)

## 編集 後記

8 月 15 日に「すいとん」を作った。今年には終戦後 80 年の節目にあたる。戦時下の食糧難の記憶を呼び起こすためだ。ご存知の通りすいとんとは、大根、人参、牛蒡などの野菜を煮て、小麦粉で作った団子を加えた汁物だ。当時は、米飯の代わりに供されたが、中身の具はほんの僅かで汁に浮いている程度。お腹はすぐに空いてしまう。しかしこのすいとんで命を長らえたのだ。今年もすいとんを食べて、日本で 80 年間を平和で過ごせたことを喜び、この平和がいつまでも続くようにと祈る。そして世界で起きている戦争や紛争が 1 日も早く終わって欲しいと願う。



ところで、なんという暑さだろう！気象庁は、9 月 1 日に「今年の夏 (6 月から 8 月) は平年より 2.36 度高く最も暑かった」と発表した。毎年最高気温を更新し、どんどん暑くなっている。「このまま温室効果ガスの排出を続ければ、気候変動は、人の力では止められなくなる」との予測がある。まだ間に合うかも知れない。戦争に使うお金を全て気候変動対策に回すしかない！

当会の今年の活動の特徴は、保育園や幼稚園への広がりを見せていることだ。にぎやかな子どもたちの声が聞こえてきてうれしい。今後も保育者のみなさんが日常的に地球温暖化問題の意識を持って幼児と接してくださることを期待したい。  
(飯田和子記)

発行：麻生区クールアース推進委員会 (委員長 児嶋脩)  
編集担当：天野悦子、飯田和子、井上正樹、児嶋脩、小林知江  
問合せ先：事務局 林恵美

Tel/Fax : 044-299-6460 E-mail : asao.cool@gmail.com

発行日：2025 年 9 月 30 日

